

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570500425		
法人名	社会福祉法人 白鳩学園		
事業所名	白鳩老人グループホーム		
所在地	山口県周南市大字大島637番地		
自己評価作成日	平成24年10月26日	評価結果市町受理日	平成25年5月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の社会福祉法人白鳩学園は知的障害者の施設です。「障害者と高齢者のふれあいの館」として、ごく自然な形で互いに支え合っています。特に今年度開催の“白鳩祭”も、「障害者と高齢者」から地域を巻き込んだお祭りへと盛大に開催されました。また、隣接の小規模多機能型居宅介護いこいの郷白鳩との交流や近隣の方の理解と協力を得る避難訓練の実施も行いました。「認知症になっても地域の中で安心して暮らしたい。」「自分らしさを保ちながらのんびりと喜びのある暮らしをしたい。」「そんな誰もが願うごく普通で当たり前の生活を送っていただきたいとグループホームを展開しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の文化祭や運動会、ふれあい夏祭りなどに出かけたり、法人の祭りに地域の人が来訪されて交流しておられる他、日常的に地域の人が事業所に立ち寄られ、野菜や花の差し入れをされたり、地域向け事業所便りを回覧して、地域に事業所の情報を伝えられるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように支援しておられます。火災時避難訓練は、地区消防団や消防署、駐在所、地域住民が参加して行われており、利用者が避難する方法についていろいろ提案があるなど、地域との協力体制の構築に繋がっております。利用者は職員と一緒に食材の買い物に行かれたり、野菜の下ごしらえや下膳、テーブル拭き、食器洗いなどをして、おられます。季節の行事食や誕生会メニュー等を工夫されて、利用者にとって食事が楽しみなものになるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく24年度方針は『安心と安全のある環境で個々を支えるケア』として取り組んでいます。意識づけとしては職員室内の掲示や名札の裏に掲げています。	「地域とのふれあいの中で、助け合い、暮らしあう」という事業所の理念に基づいて、全職員で年度ごとの目標を決め、共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の活動への参加として“生き生きサロン”に参加して12,3年になりますが、会場のハード面に不安があり全員参加が難しくなっていました。他に地域向け回覧版で事業所情報やボランティア依頼などを行い日常的に交流しています。	地域の人が事業所に立ち寄り、野菜や花の差し入れがある他、地域の文化祭や運動会への参加やふれあい夏祭りに出かけたり、法人の祭りで地域の人との交流している。地域向け事業所だよりを回覧したり、小学校で認知症の理解を深める講演をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	11月12日隣接の小学校で“高齢者にかかわる人権人権問題”と題して話をする機会を頂きました。認知症の人の理解や接し方暮らしぶりなどを話し、事業所の力を生かしたいと思っています。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	“みんなの自己評価”としてスタッフ各々が事業所を評価します。自己評価することで、一人一人の意識や思いが分かり今後の参考になっています。改善する項目も優先順位を付け取り組む努力はしています。	職員一人ひとりが書いた自己評価を主任がまとめ、管理者の自己評価と合せて作成したものを、職員全員で話し合い評価して、改善に向けて取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催される会議においてその間に受けた相談・苦情内容を報告することで、委員さんより助言を頂いたり話し合ったりする機会となっています。参加されたご家族の関心も強く、サービスの質に向けた意見として生かしています。	議題によって消防署や駐在所、地域サロンの人の参加を得て、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況、サービスの状況、外部評価結果等の報告をし、災害避難訓練の話し合い、苦情・相談対応事例等について話し合っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営やサービスにおいて様々な課題や問題が生じた際は積極的に市町村担当者と連携を取り、一緒に解決を図っています。(認知症専門ケア加算の捉え方など)	運営推進会議時に情報交換する他、市担当者と日頃から連絡をとっており、疑問や問題について相談をし、解決に向けて取り組むなど、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉や薬における拘束、ベットのサイドレールの目的など全職員が共通理解し、ホーム内や居室室内での生活空間を快適な空間として取り組んでいます。	内部研修で学び、職員は正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。構造上玄関が死角になっており、利用者の状況に応じて玄関に鍵をかける場合もあるが、ケアを工夫して出来るだけ鍵をかけないようにしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	“不適切なケア”グレーゾーンと言われる時期に互いに考え虐待が見過ごされることがないように、記録、報告の徹底を図っています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業・成年後見制度について制度を理解する研修の予定を地震を想定した避難訓練の実施に変更。“認知症や障害のある方々が、地域で安心して生活できるように支援する制度”として知識習得の必要があります。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	24年度の制度改正にあたり重要事項説明書などの変更説明はもちろんですが、パンフレットにも理解していただきやすい工夫をしました。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者や家族の意見を聞いています。サービス状況の説明になると行事などを思い起こされ発言されたり、家族から行事参加などの相談を受け意見を反映しています。	相談、苦情の受付体制、処理手続きを定め周知している。運営推進会議時や電話で、利用者や家族の意見を聞き、全職員で話し合い、運営に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が、職員から出てきた意見や提案をもとに事務長や理事長と話をすることあっても、直接事業運営について話をすることはありませんでした。	職員からの意見を月1回の会議等で聞く機会を設けている。浴室に手すりを設置するなど、意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の疲労やストレスに気を配り、勤務の交替や年次有給の要望にできる限り応じようとしていますが、実際休暇を希望する場合、他に出勤者が見つからなければは勤務交替が主流となっていまいます。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間計画に基づき、月1回程度実施。外部研修は県主催の新任職員研修程度です。地域密着型サービスの職員として求められる資質向上にむけ話し合い取り組むことが必要です。	外部研修の情報を伝え、参加の機会を提供している。内部研修は、年間計画をたて、月1回行い、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や研修会への参加が、年間通じて計画的にありましたが、勤務や意識レベルなどにより限られた職員のみ参加となっていました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	3年ぶりに新規利用者を受け入れました。隣接の小規模多機能型居宅介護からの利用者だったため職員との馴染みの関係や信頼関係は出来ていたと思います。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談をする家族の立場に立って、“今家族が求めているものは何か”、困っていることや希望していることの情報把握に努め、事業所としてどのように対応するかを見極めていきます。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接の小規模多機能からの新規利用者に対し、事前に伺った本人や家族の思いを、隣接の介護支援専門委員と連携しより実現化に向けて取り組みました。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は、一日を一緒に過ごし日々支え合う関係づくりに取り組んでいます。ただ、ご飯作りや掃除洗濯など日常生活面で、利用者の機能低下や認知症の進行により昨年出来ていたことが次第に難しくなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族と本人両者の関係が保てるように面会の 機会を確保する方法を検討しました。今年度 は、3か月ごとの介護計画書の説明を事前に 家族と調整し実施中です。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの人の面会や 家族の連れ出しに頼っているのが現状です。 働きかけとしては、年賀状や暑中見舞いなど のあいさつ状で保てるようにしています。	知人や親戚の来訪がある他、家族の協力で 月1回の外食や外出をし、年賀状や暑中見舞 いのはがきを出すなど、馴染みの人との関係 が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談にのったりすること が同時におきていま、受容することが難し い状況もありましたが、みんなで楽しく過ごす 時間や気の合う者同士過ごせる場面づくりに 配慮しました。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られる際に、移り先でのダメ ージを最小限にするための情報提供や家族へ の配慮に努めました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人がどのように暮らしたいのか、何が最良 なのかを生活全体で捉えられるように努力し ています。たとえば、居室内の家具やベッドの 配置を本人の行動や希望に配慮していま す。	利用者に寄り添い、日常の言葉や行動から 思いや意向の把握に努めている。困難な場 合は、家族と話し合い、本人本位に検討して いる。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	家族にこれまでの暮らしの情報の大切さを理 解していただき、プライバシーに配慮ながら 情報を得るようにしています。また、入居した からといって、急に生活リズムを変えるのは困 難な為、本人の生活リズムを把握した上で対 応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活の流れから排泄の時間や生活リズムを見出し、個々の生活形態の把握に努めています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会が少なかったり、遠方にいる方などで、十分に介護計画書の内容を伝えることは難しいのですが、話す機会(TELなど)は設け、できる限り取り入れ反映しています。	本人や家族の意見を参考に、介護計画を作成している。3ヶ月に1回見直しをしている。計画作成担当者は家族と面談し、介護計画について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録などは個別のファイルがあり、いつでも確認できるようになっています。今後は、日々の記録から、介護計画の見直しに活かせる記述に努めます。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の通院はもちろん、定期通院介助や買い物・散髪の支援程度です。ただ、心身の状態に応じて必要な方には隣接の特別浴槽や特殊車両(車椅子対応)を利用しています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、本人が地域の中で暮らせるように地域団体の協力を得て生き生きサロンへの自主参加を実施しました。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々の今までの医療機関とのかかわりを大切にし本人やご家族の希望に応じています。また、受診日時の予定や結果をお知らせしたり、必要に応じて、受診の支援も行っています。	本人、家族の希望する医療機関や協力医療機関ををかかりつけ医とし、受診は家族の協力を得て支援している。歯科は往診があるなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護職やかかりつけ医の看護師と気軽に話し合える関係や相談にのっていただく協力体制はできています。また、そこに必要なかかりつけ医への情報も日頃から提供できています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	大腿骨脛部骨折手術やリハビリ入院によるダメージをできるだけ防ぎ、受け入れ可能な段階でなるべく早く退院できるように、病院関係者と情報を共有し状態把握に努めています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期に対する事業所の方針を伝えて、理解を得ています。(要介護4の認定がでた段階で、入所施設の登録をしていただき要介護5認定を経て2年以上のちに退所されました)	契約時に重度化した場合の事業所の方針を家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や関係者と今後の方針を話し合い、移設も含めて共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	平成19年度から平成23年8月までの事故・ニアミス発生状況の時間・場所・種類・内容等を集計をもとにし、原因や対策を検討し事故防止に取り組みました。今後は、一年に一度研修内容を振り返り身に付けたいものです	「事故・ニアミス報告書」を作成し、対応策を検討し、事故防止に取り組んでいる。主任が緊急時の応急手当の研修や救急救命の研修を受け、内部研修で復命研修を行っている。	・全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための、定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	7月30日に地域の理解と協力を得て非常災害発生の時を想定した訓練を実施しました。	地区消防団、消防署、駐在所、地域住民等多くの関係機関と連携して火災時避難訓練を実施している。利用者を実際に誘導し、避難することで状態がわかり、今後の訓練の課題につなげている。がけ崩れ災害対策で小学校へ避難する訓練をしている。地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	9月に『倫理及び法令遵守に関する研修』として介護保険事業所の職員としてのモラルについて触れてみました。また、1月に、引き継ぎ・申し送り・排泄・入浴・食事等各項目について意見を出し合いました。	内部研修で倫理やプライバシーについて学び、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるのではなく、生活の中で選択できる場面や言葉かけを工夫しています。自己表現・自己決定できるようにこれからも取り組んでいきます。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは決まっていますが、無理強いや抑制はありません。その日その時の本人の気持ちを大切にしながら、居室の有効活用を実施しています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の行先、行事などに合わせて服装の選択や希望を聞く機会作りに努めています。また、美容については馴染みの美容師に訪問美容を依頼し、できる範囲で本人の希望を聞いています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入から調理・配膳・食事・片付けに至るまで職員と利用者が一緒に楽しみながら行っていましたが、最近は次第に難しくなってきました。そこで、時には外食、お弁当なども取り入れ、食を楽しむ支援もしています。	利用者と職員は一緒に買物に行き、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は食材の下ごしらえ、下膳、テーブル拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。季節の行事食や誕生会メニューなど工夫して、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医との連携により、一人ひとりの健康状態に合わせた食事提供をしています。また、摂取量については大まかではあるが把握できています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの徹底とその重要性の理解はできています。もちろん、義歯の手入れもきちんとしています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄間隔を把握することにより、尿意・便意の訴えの希薄な利用者にもトイレでの排泄を心がけています。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医とも連携を図りながら、薬に頼ることなく、自然排便に心がけています。また、適度な運動や食材(朝食のヨーグルト等)に気を使っています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	この秋より2日1回の入浴を試みています。毎日入浴も可能で、回数やタイミングは、利用者の希望を聞いて行っています。、好みやつるぐ入浴として温泉の素などを使用し楽しんでいただいたこともあります。	入浴は、2日に1回可能で、希望にあわせ毎日でも入浴することができる。入浴剤を入れるなどの工夫をして入浴が楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めています。また、一人ひとりの体調や希望によりゆっくり休息できるようにはたらかけています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援には細心の注意をはらい担当者が分かりやすく準備しています。また、服薬一覧表や診療日誌などにより、全職員の理解ができるようになりました。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、外庭の掃除など一人ひとりの力が発揮できる場面作りに心がけています。また、ハポスチロール畑でミニトマトや分葱などを身近な場所で育ててみました。	ラジオ体操、園芸、カラオケ、楽器の生演奏鑑賞、トランプ、縫い物、文化祭に出す作品作り、調理の下処理、片付け、洗濯物たたみなど一人ひとりの活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の中で定期的に外出する行事を組み込んでいるが、その日の希望で出かけることは、非常に少なくなりました。また、近隣の外出も難しく毎日の買い物の交代ででかける程度になっています。	食材の買物に一緒に出かけたり、外食や季節の花見、みかん狩り、事業所の敬老会(笠戸島)、運動会の参加など、家族や地域ボランティアと協力し、外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各々の部屋での金銭管理は困難なためご家族のご理解をいただき、事業所で管理させていただいています。ただ、買い物や外出の際支払い可能な方については自分で出来るように支援しています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者ですが家族の協力を得て日常的にやり取りがされています。そのことが本人にとって生きがいですが、その楽しみも希薄になってきました。今後も閉ざすことなく支援をしていきます。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の多くが長時間過ごす居間台所を居心地の良い空間となる様に改修しました。その結果、9名の利用者がテーブルで食事をすることができるようになりました。	台所、食堂、居間がワンルームで日差しが入り込み明るく、調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。季節の花を飾り、利用者の作った作品で季節感を出している。畳の間にはソファ、座卓、テレビがあり、くつろぐ空間となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースのあちこちに、少人数で過ごせる空間を作り、腰掛やベンチを置き居心地の良い空間として活用してもらっています。もう少し、腰を掛けるスペースがあるといいなとも感じます。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みに制限はありません。ただ、事業所で画一的に設備がされたもので間に合うため、配置の工夫で居心地の良さを感じてもらっています。	テレビ、写真、ぬいぐるみなどを持ち込み、花や人形、本人手作りの作品などを飾り、居心地よく過ごせるように支援している。ダンスやベッドを利用者の動きやすい配置にするなど安心して過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの表示をすることにより混乱や失敗を防ぎ自立に向け支援しています。今後は、玄関まわりで座って靴が履けるように椅子の設置や手すりの活用を図っていきたいです。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 白鳩老人グループホーム

作成日： 平成 25年 5月 10日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	H24年度主任が緊急時の応急手当や救急救命の研修を受け、内部研修で復命研修を行ったものの実践力に不安がある。	職員の一人ひとりが応急手当や初期対応の実践力を身に付ける。	H25年度、内部研修で10月、3月の2回計画する。また、消防署との連携を図り、応急手当や初期対応の実践力を身に付けるための訓練を実施する。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。